

ヘアリーベッチを活かした都市近郊型集落営農の確立

当普及センターは、緑肥作物のヘアリーベッチを利用した環境にやさしい米づくりの拡大に取り組んでいる。さらに、環境創造型農業と地域内交流を軸とした都市近郊型集落営農経営の確立を目指した普及活動を展開している。

1 モデル集落営農の概要

明石市大久保町の「東江井地区営農組合」は、J R大久保駅の南西1 km圏内の市街地に囲まれた地域に圃場整備済農地16.5haを有している。近年、堆肥が不足し、これを補う緑肥作物レンゲも不作続きで、十分な土づくりができなかった。

2 ヘアリーベッチ米の育成とブランド化

2010年度から普及センターは、本組合にマメ科一年草の緑肥作物「ヘアリーベッチ」（以下ベッチ）の栽培を勧め、2011年秋には栽培面積が9haに拡大した。ベッチは窒素成分を多く含み、後作作物の化学肥料施用量を削減できる。普及センターは、ベッチ作付け跡の水稻を「ヘアリーベッチ米」として有利販売するため、「ひょうご安心ブランド農産物」の申請を支援し、2012年10月に認証を受けた。そしてJAあかしが「花美人」のブランド名で、同年11月から販売を始めた。

3 付加価値向上への新たな取り組み

2013年度から、本組合は「ベッチ米」を消費者に分かりやすくPRするため、養蜂家と提携して

ベッチから採蜜し、地域住民や地元企業の従業員を招いてハチミツ収穫体験を開催した。ベッチから採取したハチミツはレンゲと同等の高品質と評価を受け、本組合は2014年度から瓶詰・販売し、地元的话题を集めた。また、地元酒蔵と連携し、ベッチ米（ヒノヒカリ）100%で生産された酒造りに取り組んだ。2014年3月に新酒「天狗松」が完成し、試飲会で広くマスコミにPRした。現在は、ベッチの緑肥のみで栽培した酒米を使い、2015年3月の商品化を目指している。

4 今後の取り組み

本組合は、2012年に「人・農地プラン」を策定し、地域農業の担い手としても期待されている。今後も普及センターはベッチを有効活用し、地域住民や地元企業が農業を「見て」「体験」できる都市近郊型集落営農組織の新たな経営モデルとしての活動を支援する。

松井 孝之（加古川農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：079-421-9354）



写真 ヘアリーベッチから採集したハチミツ

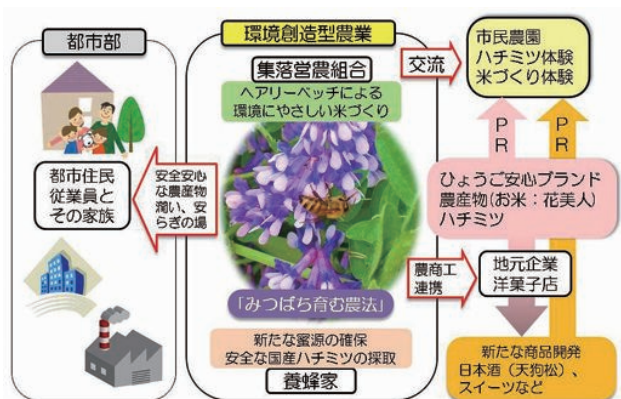


図 都市近郊型集落営農モデル

ひょうごの農林水産技術 No.188 (2015.2) ※本内容は、当センターホームページにも掲載

平成 27 年 2 月 15 日

兵庫県立農林水産技術総合センター (0790) 4 7 - 2 4 0 8